

助成金等公募情報

山梨みらいファンド

(公財)やまなし産業機構では、起業の促進と新事業創出を図るためファンドを設置し、その運用益により県内中小企業が行う新たな事業の創出に対して必要な資金を支援するための助成事業を行っています。

募集期間 平成30年10月25日(木)～平成30年12月25日(火)17時必着

採択予定数 ・成長分野スタートアップ資金助成事業 3件程度
・次世代技術活用事業 1件程度

決定時期 平成31年1月下旬(予定)

詳しくは <http://www.yiso.or.jp/subsidy/fun> をご覧ください。

助成事業の概要

助成事業	内容	
成長分野スタートアップ 資金助成事業	内容	今後成長が期待される分野における起業に要する経費の一部を助成
	対象者	県内に本社(拠点)を設置して起業する者、県内に本社(拠点)を設置した起業後5年未満の者
	助成金	上限:50万円 助成率:対象経費の2/3以内
次世代技術活用事業	内容	先進的かつ革新的な技術を活用した新たな事業活動に要する経費の一部を助成
	対象者	県内に事業所がある中小企業又はそのグループ
	助成金	上限:200万円 助成率:対象経費の2/3以内

今後のイベント情報



来場者500名を超える県内有数の食品・加工品の展示商談会です。

この機会にビジネスの幅を広げてはいかがでしょうか。

開催日時 平成31年1月23日(水)
12:00～17:00

場 所 アピオ甲府 本館1F

国際 水素・燃料電池展
FC EXPO 2019

世界最大!水素・燃料電池の専門展

開催日 平成31年2月27日(水)～3月1日(金)

場 所 東京ビッグサイト

【発行 2018年11月30日】



国立大学法人 山梨大学
研究推進・社会連携機構
新技術情報クラブ事務局
〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL:055-220-8754 FAX:055-220-8757
E-mail:renkei-as@yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.scrs.yamanashi.ac.jp/>

大学TOPICS

「山梨大学個別相談会」を山梨中央銀行荊崎支店にて開催

平成30年10月23日(火)、株式会社山梨中央銀行荊崎支店において、本学主催・同行共催「山梨大学個別相談会」を開催しました。

これは、企業等が抱える技術的な課題・問題等について、本学研究推進・社会連携コーディネータが相談に応じ、本学の技術・ノウハウ・知見等をご紹介します取り組みです。今回、同行が中心となって企業等に呼びかけ、開催が実現しました。

相談会では、製品の不良品率の改善、工場内騒音対策、農産品の機能性検証、食品のブランド化、製品の性能評価、AIを活用した問題解決等、6企業からの多岐にわたる具体的な技術相談に応じ、対応策のヒントや提案、研究者のシーズ紹介等を行いました。今後、本学との共同研究につながる案件もあり、大変有意義な相談会となりました。



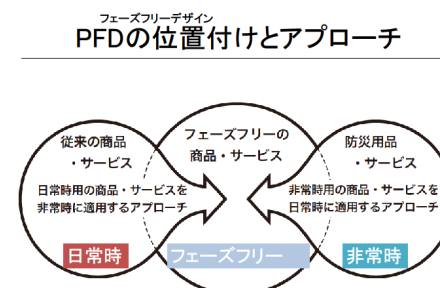
相談会の様子

(左)内藤地域連携コーディネータ
(奥中央)還田社会連携・知財管理副センター長
(奥右)石田産学連携コーディネータ

新技術情報クラブ報告

アカデミックサロン(第22回)を開催しました!

第22回アカデミックサロンを、平成30年11月9(金)午後4時30分から甲府駅北口(山の手通り)「アジュール」にて開催しました。工学部(土木環境工学科)の秦康範(はだやすのり)准教授から「フェーズフリーについて」というテーマで講演を戴きました。フェーズフリーは、人々の防災意識向上に頼らない社会の脆弱性解消を目的とし、この概念を商品やサービスに具現化させることで、日常時や非常時などの社会のフェーズに関わらず、適切な生活の質を確保できる。これにより、支障となる物理的な障害や、精神的な障壁を取り除くことができる。という目的と意義なのですが、図を見ていただくとフェーズフリーの位置づけがわかりやすいと思います。まだ聞きなれない「フェーズフリー」という言葉に、講演終了後みなさん熱心に質問されていました。また、秦先生からフェーズフリーの小冊子を配布していただき、普及に力を入れていることを垣間見ることができました。第2部の情報交換会は大いににぎわい、それぞれが持ち寄った情報で交流を深め、将来のビジネスにつながる夢を咲かせていました。



出典:松崎・佐藤・秦・西原・目黒(2018)

アカデミックサロン(第23回)を開催します!

第23回アカデミックサロンは次の予定で計画しております。メールでも配信いたしますが、チラシは作成中なので先行してお伝えいたします。今回は、ソフトウェア関連を準備いたしました。ソフトウェアとはいえ、適用範囲は経済・統計・現象判断・農林水産業など社会科学に及ぶまで広く応用可能になります。

- 日時 平成30年12月18日(火) 16時30分開始
- 講師 コンピュータ理工 助教 山本泰生(やまもとよしとか)
- テーマ 「推論による仮説発見の自動化とその応用(ビッグデータの解析)」(仮)
- 場所 レストラン・アジュール(甲府市北口3-9-8 愛宕トンネル西)
- 費用等 クラブ会員は無料(2部の懇親会は有料)

なお、12月7日まではクラブ会員優先期間といたしますので、ぜひご利用ください。



第22回アカデミックサロン風景

産学官連携TOPICS

「山梨テクノICTメッセ2018」に出展しました！

平成30年11月15日(木)から27日(土)の三日間、アイメッセ山梨で山梨テクノICTメッセ2018が開催されました。本学は甲府商工会議所のご厚意で、「甲府商工会議所ものづくり推進コーナー／国立大学法人山梨大学」として、ホットな研究の一部をサンプル模型や試作機の展示とともに行いました。10の展示のうち2つを紹介しますと、機械工学科の野田准教授が開発した低重心型平行二輪運搬ビークルは、電動アシストで圃場の坂道を上ることができ、収穫かごが斜面でも平行を保ち続けることができるというビークルで、展示物が大きいこともあって、多くの方の視線を釘づけにしておりました。実際の使用状況を動画を使って説明をするとブースに来られた方たちは熱心に聞いておられ、その便利さにうなずいていましたので早い製品化が期待されます。機械工学科の岡澤教授はコンピュータシミュレーションを使って、自動車の衝突、接合部や乗員の挙動など、複雑な機械要素を統合してシミュレーションする解析をPC動画でデモンストレーションしました。また、「コンピュータシミュレーションによるモノづくり革新の取り組み」と題して講演も行い好評を得ました。そのほか、工学部機械工学科の岡澤教授、鳥山准教授、浮田助教、情報メカトロニクス工学科の牧野助教、コンピュータ理工学科の小澤教授、分子病理学講座の小幡助教、そして、水素・燃料電池技術支援室、融合研究臨床応用推進センターおよびPUIPの活動について展示を行いました。少しでも興味を持たれた方はぜひ新技術情報クラブ事務局まで連絡をください。



山梨大学ブース

プレゼンをする岡澤重信教授

会場ではVRによるフェンシング体験で多くの来場者が順番待ちをしていたり、匠の技コーナーでは旋盤とフライス盤の熟練者が技を披露しており、見学者がその技を盗み取るかのように無言で見つめていたのが印象的でした。最終日の土曜日はロボコンやまなし、家族や子供さんを対象にしたイベントで大いににぎわっていて、将来の工業界を担ってくれることを期待したいです。

「JST新技術説明会」を開催します！

平成30年12月6日(木)JST東京本部別館ホールにて「山梨大学 新技術説明会」を開催いたします。新技術説明会は、特許庁、関東経済産業局の後援の下、本学とJSTとの共同で主催し、研究成果である新技術(特許)を実現させることを目的とし、研究者自らが直接プレゼンする特許の説明会です。

本学からは、下記表にあります4名が、4件の新技術をベースとした本学の研究シーズの発表を行います。すでに、約70名の参加申込みや、研究者との個別相談の予約をいただいております。本学の研究シーズへの関心の高さを実感しております。この説明会を発端に産学連携が進み、本学の研究成果の実用化へつなげるよう推進いたします。

小澤 賢司 教授	焦点位置からの音のみを収録するスマホサイズのアレイ
牧野 浩二 助教	切開による手術が不要となる脊椎伸長システム
小幡 史子 助教	働きすぎで不規則な生活の中でもテストステロンを増やすことで精子を増やす剤の開発
浮田 芳昭 助教	高精度・高信頼性ポイントオブケアELISAのための多検体同時分析デバイス

会場 JST東京本部別館(東京・市ヶ谷)のご案内
科学技術振興機構(JST)
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町 JST東京本部別館ホール
TEL: 03-5214-7519
●JR「市ヶ谷駅」より徒歩3分
●都営新宿線、東京メトロ南北線・有楽町線「市ヶ谷駅」(2番口)より徒歩3分

なお、開催終了後、JSTのホームページに当日のプレゼン資料がアップロードされます。
当日参加できない企業はこちらよりダウンロードいただけます。

<https://shingi.jst.go.jp/list.html>

会場へのアクセスマップ



コーディネータ による【研究者紹介】

土木環境工学科 准教授 秦 康範 先生

今回は、工学部土木環境工学科准教授の秦康範先生を紹介します。大学生時代に精密工学を専攻されていましたが、大学4年生の時に阪神・淡路大震災を経験されたのをきっかけに、防災への道を志されています。防災は健康と似ていて、どうすれば良いか処方箋はわかっているけれど、普段からそれを常に意識して行動することは難しい、これが課題となっているそうです。

防災は、これまでコストと認識されて来ましたが、これからは「バリュー」にしていく必要があるとおっしゃっています。つまり、普段生活のなかで自然に使い、さらに非常時にも役立つ、防災意識に頼らない社会、日常と非日常の2つのフェーズを分けない「フェーズフリー」という考え方を提唱されています。例えば、ハイキングで使われるリュックの留め具が救難用の笛を兼ねていたり、植木鉢のカバーケースがヘルメットになったり、公園が避難所の機能を持っていたりといった具合に、フェーズフリーには日常バリューと非日常バリューを普段生活の中にどうやって取り入れていくかの工夫が必要となります。

先生の話では、一般の人には災害の時に何が必要なのかなかなかわからないので、プロの目でフェーズフリー商品の対象となる評価基準を策定したり、商品にフェーズフリーマークをつくってみるなどの構想を持っておられます。今後これらが具体化され、普段使いの商品やサービスがもしものときに防災の機能も発揮する、そんな日常の様々なところにフェーズフリーがあふれ、災害が起きた時に少しでも不安がなくなるような社会が実現されることを目指しているそうです。フェーズフリーは、誰もがそれぞれの立場で参加できる、オープンなプラットフォームです。日常と非日常を取り込むフェーズフリーになりそうなアイデアをお持ちの皆様、ぜひご提案してみてください。（文責：石田コーディネータ）



情報メカトロニクス工学科 准教授 丹沢 勉 先生

今回は、情報メカトロニクス工学科准教授の丹沢勉先生を紹介します。大学生の時にセンサの重要性に目覚め、それ以来センサの研究をされています。特にステレオカメラを使った画像認識に力を入れておられ、現在盲導犬の代わりとなる視覚障害者用歩行支援ロボットの研究を行っています。ステレオカメラとは左右に配置したカメラから取り込まれた画像には左から取り込まれた画像と右から取り込まれた画像に差があることを利用して、取り込まれた映像を立体的に画像処理する技術を用いています。先生は特別な機器を用いることなく、市販されているパソコンやカメラを使って研究することによって、実用化の際に普及しやすくなりようにしているそうです。電動車いすからはじまり、活動的なお年寄りの行動にも対応できるよう、現在は歩行器の開発を手掛けておられます。他にボールを傘の上で落とさないように回す「傘回しロボット」や雑音に強い超音波センサの研究と各種センサへと研究の手を広げておられます。先生は、大学で製品づくりはできないので製品開発していただける企業を求めています。また、売って終わりではなく利用者と双方で情報交換できるシステムやサポートが必要とおっしゃっています。今後は使う人と機械のつながり、例えば、障害物を避けようとして急にハンドルを切ると危険なので、得られた情報から無理な対処をしないよう処理をするなど、人にやさしい機械に目を向けていくこと必要であるとおっしゃっております。

(文責:石田コーディネータ)



山梨大学特許最新情報

山梨大学が出願した最新特許情報につきましては、非公開の情報も含まれますので

会員以外には公開しておりません。